

平成29年度 全国学力・学習状況調査の結果分析

京都市立西賀茂中学校

4月18日に、本校3年生230名を対象に実施された「全国学力・学習状況調査」について結果の分析をいたしましたので報告させていただきます。本調査は、国語と数学のテストと同時に、家庭での過ごし方や学習時間を問う調査（生徒質問紙）も実施されました。生活習慣と学力との関係などから、本校生徒の課題や成長してきているところなどを分析し、今後の教育活動に活かしていきたいと思ひます。また、ご家庭でもこの結果分析を子どもたちの生活習慣の改善などに活用していただきます様お願いいたします。

【総合結果】 国語・数学の両教科において、本校生徒は知識を問う問題に比べ、知識を活用する問題の正答率が低く、京都市の状況とは異なります。身につけた知識をいかして問題を解決する力が求められている中、活用する力をつけるような学習活動を進めていく必要があると反省し、今後の授業の在り方を検討していきたいと思ひます。



知識の活用と共に本校生徒の課題と言えるのは、無解答率の高さです。活用に関する問題のみならず、知識を問う問題であっても記述式の問題では容易に諦めてしまい、じっくり考えて解答できない生徒が多いのだと考えられます。普段の授業でも、自分の解答に自信が持てず、間違いを恐れて解答を書かずに答え合わせを待つような姿勢がよく見られます。苦手な問題に対し、じっくり諦めずに取り組める姿勢を養っていくことが必要だと言えまひす。

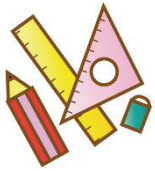
もう一つの特徴は、学習意欲、学習到達度、学習時間などの学習面、読書の時間、起床時間などの生活面の両面において2極化が目立つところまひす。前向きに学習したり、規則正しい生活習慣を身に着けようとしたりできる生徒の比率が全国平均を上回ると同時に、その反対の意欲的に行動できない生徒の比率も全国平均を上回る結果となりました。今後、本校ではグループでの協働学習を授業で効率的に行ひ、苦手な生徒に対し、より細かい指導をしていくなどの対策を検討し、実施していきたいと思ひます。

	国語A（知識）	国語B（活用）	数学A（知識）	数学B（活用）
京都市	78	73	65	49
京都府	78.0	73.0	66	49
全国	77.4	72.2	64.6	48.1

【国語について】 A問題、B問題共に京都市平均を数ポイント下回る結果となりました。特に、状況に合わせて書く、自分の意見を書く、漢字を書きとるなど書く問題の正答率が低く、無解答も目立ちました。自分の意見を筋道立てて論理的に表現できるように、授業では意見を書いて交流する学習も行っています。しかし、書くことに抵抗感を持つ生徒は依然多いのが現状です。書くことに慣れさせる取り組みがもっと必要であると思ひられます。反対に「話す・聞く」の分野では、全国平均と変わらない指数を取ることができました。生徒質問紙の解答において、「授業での話し合い活動はよく行ってきた」との認識が生徒側にもあることから、意見を交流するグループ活動を行ってきたことがこの結果に影響したのだと考えられます。しかし、その指数はまだ高いものではないので、話し合いの内容が課題解決的なものではなかったのではないかと分析できます。今後は、引き続きグループでの話し合い活動を行ひ、さらに質の高い話し合いになるような工夫をしていくよう研修を深めていきたいと思ひます。他に本校生徒の正答率が高かったのは、漢字の読みに関する問題や事実の読み取りに関する問題で、これらは授業や家庭学習の日々の積み重ねにより身につけた力であり、今後も繰り返し学習を進めていって欲しいと思ひます。



【数学について】 A問題、B問題共に全国平均とほぼ同じ正答率で、京都市平均よりはB問題において少し下



回る結果となりました。しかし、領域別正答率では、B問題の図形問題で全国平均を3ポイント上回ることができました。反対に資料を活用する問題が著しく低く、中学1年生での学習範囲を復習することの必要性が浮き彫りとなりました。全体を通して見ると、正答率が高いにも関わらず無解答率も高い問題や、多くの生徒が同じ間違いをしている問題があり、教師側の感覚と実際の生徒の理解度に差が生じていることが考えられ、数学を苦手とする生徒への細かい

指導や感覚的な理解にとどまっている生徒の理解を深めるための発問の工夫、生徒に説明させる記述式の問題作成など改善を進めていきたいと思ひます。

【生徒質問紙調査（生活状況）について】

生活習慣： 「早寝・早起き・朝ごはん」について、毎日きちんとできていると答えた生徒は、本校の過去3年間の調査の中で最も低く、全国平均を下回る結果となりました。特に就寝については、「同じくらいの時刻に寝ている」と答えた生徒は全体の28%で、次項目の携帯電話、スマートフォンの使用との関係が心配されます。



携帯電話、スマートフォン： 使用時間が4時間以上と答えた生徒が全体の15%もあり、全国平均を大きく上回っていました。携帯電話、スマートフォンの使用に関するルールを決めている家庭は20%と少なく、その使い方についてもう一度検討する必要があると言えます。

人権意識： いじめについて、「いじめはどんな理由があってもいけないことだと思いますか」という質問に対して9割以上の生徒が「そう思う」「どちらかといえばそう思う」と答え、いじめを許さない姿勢を持っていると考えられ、人権意識が育ってきていると言えます。今後も人権を大切に守っていく姿勢を育てていきたいと思ひます。

家族との時間： 休日部活で過ごす割合が全国平均に比べ低い割に、家族と過ごす時間も全国平均に比べて大きく下回っています。家庭での会話は、学校での出来事や将来の事について「話す」「時々話す」と答えた生徒が半数を超えませんでした。思春期で自分のことを話したがりない時期ではありますが、意識的に大人の方から話をするよう努め、少しでも多く家族との時間を持つよう心掛けて下さいます様お願いいたします。

家庭学習・読書習慣： 「平日、2時間以上勉強する」「学校休業日に4時間以上勉強する」生徒の割合が、全国平均より大きく上回っている一方で、「全くしない」と答えた生徒の割合も全国平均を上回っています。特に、「学校休業日には全く勉強をしない」という生徒が18%もあり、全国平均の10%に比べて多く、「家庭学習を行う生徒」と「全くしない生徒」の学力には大きな差が生じています。学校として、ある程度の宿題は課していますが、一人一人の学習到達度も異なりますので、自分の課題に合わせて自分にとって必要な学習に取り組むこともとても大切なことです。また、読書をまったくしない生徒の割合が、全国平均と比べると低く、ここにも課題が見受けられました。

【保護者の皆様へ】

全国学力・学習状況調査は、子ども達の学習状況や生活状況を知り、子ども達の可能性を更に伸ばし、課題を解決していくためのものです。結果が学力の全てを表しているのではなく、順位を競うものでもありません。学力は、学校・家庭・地域での地道な積み重ねにより定着していくものであり、望ましい生活習慣や日々の学習習慣がその基盤となります。今後とも、子どもたちの健やかな育ちと学びの環境づくりにご協力をお願いします。

生活習慣と学習到達度の関係を表すクロス集計では、スマートフォンの使用時間と平均正答率の関係などを見ることができます。是非、京都市教育委員会ホームページへアクセスしてご覧下さい。

京都市教育委員会ホームページ 「平成29年度「全国学力・学習状況調査」の結果について＜資料＞」

<http://www.city.kyoto.lg.jp/kyoiku/page/0000158413.html>